



学薬のひろば



<1月号>

Vol. 036

10月31日(火)、愛知県歯科医師会館において第54回愛知県学校保健研究大会が開催され永年勤続40年以上学校医・学校歯科医・学校薬剤師の表彰において代表として大野房子先生(岩倉東小学校)が県教育長より表彰を受けられました。他の表彰の先生方を含めその長年のご努力とご功績に対し深く敬意を表したいと思います。

また、県学薬会長の築城先生が藍綬褒章、副会長の村松先生が文部科学大臣表彰を受賞されましたことをここにお知らせするとともにお祝い申し上げます。



さて、10月号でお知らせしました日本学校薬剤師会の法人化を議題とする臨時総会の結果は29対50で今回は否決されました。愛知県としては学校薬剤師のさらなる飛躍を願って臨みましたが全国的にはまだまだ各県支部が組織として未熟だと痛感させられました。愛知県としては今後さらに全国の学薬をリードできるような、組織力・行政との連携など、会としての充実・発展を推進し手当等の拡充を図りながら、同時に全国の学校薬剤師の意識の変革に期待し将来に備えたいと考えます。今後も会員の先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

下記に全国学校保健研究大会・全国学校薬剤師大会報告をさせていただきます。

.....

第56回 全国学校保健研究大会報告

愛知県学校薬剤師会 杉本 匡

日 時:平成18年11月9日(木)・10日(金)
 開催地:島根県松江市
 会場:全体会 <島根県民会館>
 課題別研究協議会 <島根県民会館 他>
 主 題:生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を
 はぐくむ健康教育の推進
 ～心身の健康づくりに主体的に取り組む子供の育成～



【大会開催趣旨】

近年の子供たちを取り巻く社会や環境の変化はいじめ、不登校、性の逸脱行動、生活習慣病の兆候、アレルギー様疾患、薬物乱用等の問題となって、子供たちの心やからだに様々な影響を及ぼしており、それらの課題を解決することは学校教育の喫緊の課題となっている。

このため、学校において家庭や地域の関係機関等との連携を深め、子供が自ら健康課題を見つけ、学び、考え、主体的に行動できるようたくましく「生きる力」を育む教育を推進する必要がある。生涯を通じて心豊かにたくましく生きる子供の育成を目指し、健康教育について研究協議し、学校保健の充実発展に資するものである。

【全体会】

第1日目の全体会は、島根県民会館で開催されました。開会式の後、学校保健・学校安全功労者等に対して文部科学大臣表彰が行なわれ、本年度は我々愛知県から村松章伊先生（愛知県学校保健会副会長・愛知県学校薬剤師会副会長）が受賞されました。おめでとうございます。

表彰式終了後、島根県立松江北高等学校、松江東高等学校合同合唱部による合唱のアトラクションが行われました。その後清川輝基氏により「子どもが危ない！～“メディア漬け”が子どもを蝕む～」と題して講演が行われました。テレビ、ビデオ、ゲーム遊びなど、長時間のメディア接触時間が子供たちの生活リズムを大きく乱しており、親の中には乳幼児を長時間メディアにさらしている人もいる。子育てをメディアに任せているといってもいい状況である。情報化社会の中で、日本では「情報の海」をきちんと渡る教育が行われていない。きちんと子供に教えるべきと清川氏は訴えられました。情報がいつでも、どこでも入手できる便利な今日の中で子供に対する悪影響を認識させられ、今後の日常生活において当たり前になっているメディアの利用の仕方なども考えさせられた講演でした。



【課題別研究協議会】

第2日目は松江市内数会場に分かれて研究協議が課題別に開催され、我々は学校環境衛生活動を課題とする会場（島根県民会館）にて受講をしました。

<第8課題>

研究協議題：快適な学校環境つくりをめざす

学校環境衛生活動の進め方

趣 旨：快適な学習環境をつくるためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、児童生徒が環境問題について自ら関心を持つことが必要である。このため、学校環境衛生の基準を踏まえた学校環境衛生活動の進め方について協議する。

まず指導助言者である大嶋雄二氏(愛知県教育委員会健康学習課主査)により趣旨説明・講義が行われた後、上記趣旨に沿って以下3組による研究発表が行なわれました。

○ 徳島県立城西高等学校神山分校 保健主事 坂野 真吾 氏

『「環境」をキーワードにした教育実践』

本校は全日制の農業高校で「環境」をキーワードに造園技能や園芸装飾の分野で活躍するスペシャリストの育成に努めている。「学校版環境ISO」の取得に伴って、学校裏の清流鮎喰川の水質・水中生物の調査や、学校グラウンドの芝生の管理をはじめ芝生による温度変化や体育時における怪我について調査する

など、従来の活動に加えて「環境」に関する活動を積極的に行っており、その成果と課題についての報告。

- 島根県雲南市立掛合中学校 養護教諭 三嶋 恭子 氏／学校薬剤師 長岡 栄 氏

『豊かな心と主体的に取り組む力を育む教育～学校環境衛生活動を通して～』

学校環境衛生全体計画を立案し、養護教諭と学校薬剤師が連携を図りながら、他の教職員も安全点検を行い、事後措置（学校薬剤師からの市教委への働きかけ等）を進めている。「さわやかタウン大作戦」と題して自分たちの住む町のごみ拾い等を通じ生徒の環境衛生への意識化を図っている。学校全体で環境衛生活動を行った成果と課題についての報告。

- 岐阜県岐阜市立鷺山小学校 保健主事 河田 彰子 氏

『快適な学習環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方～よりよい環境の維持・改善を目指して～』

教室の換気をより効率よく行うには、適切な照度を得るためには何を改善すればよいのか、プールの残塩を基準に満たすための管理方法など、全教職員が改善の必要性を十分に理解して行動をし、様々なパターンを試して学校環境づくりに取り組み、その結果以前よりも学校環境が良くなったとの報告。

上記発表に対する質疑応答が活発に行なわれ、大寫雄二氏の指導助言を受けた後、城戸照彦氏（金沢大学大学院教授）による『快適な学校環境づくりの視点』と題しての講義があり、全日程を終了しました。

第56回 全国学校薬剤師大会報告書

愛知県学校薬剤師会 杉本 匡

開催日時：平成18年11月10日（金） 13：00～16：30

開催会場：サンラポーむらくも（島根県松江市）

主 題：生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
～心身の健康づくりに主体的に取り組む
子どもの育成～

報 告：

第56回全国学校薬剤師大会が上記日時・会場にて開催されました。

杉下順一郎氏（日本学校薬剤師会会長）の挨拶をはじめ、ご来賓の方々によるご祝辞の後、日本学校薬剤師

会表彰、日本学校薬剤師会感謝状の各表彰と文部科学大臣表彰者への記念品贈呈が行われました。

築城敬直氏（日本学校薬剤師会副会長・愛知県学校薬剤師会副会長）より審査経過報告が行われた後、表彰式が行われました。

今年度は愛知県から下記の方々が各賞に選出・表彰されました。おめでとうございます。

〔文部科学大臣表彰〕

村松 章伊 様

（愛知県学校薬剤師会副会長・愛知県学校保健会副会長）

〔日本学校薬剤師会感謝状〕

落合 まゆみ様（春日井市立味美小学校保健主事）

石川 妙子 様（豊橋市立幸小学校保健主事）

黒柳 浄子 様（愛知県立高等学校主任養護教諭会会長）

山本 恭枝 様（名古屋市立学校保健会養護教諭会会長）



表彰式終了後は、澤田康文先生（東京大学教授・薬学博士）より「薬育のための薬物動態学」と題して、特別講演が行われました。

「薬育」とは、薬に関する正しい使用法や副作用などの知識を子どものうちから教育しようという試みで、近年は医薬品を自分の判断と自己責任で選び、使用することが求められるようになっている。薬育の主役として注目されているのが学校薬剤師で、これまでの薬物の害についての教育だけでなく、医薬品の使用について適切に判断する力を養い、自分のよさや可能性を生かそうとする気持ちを持つこと、といった周辺知識についても教育する必要がある。医薬品に関心を持ってもらうために科学的な内容に基づくコンテンツによるアプローチが最良と考え、「薬を科学する話」＝「薬物動態」についてのご講演をいただきました。特別講演終了後、閉会となりました。

.....

名古屋市学校薬剤師会寄稿

創立70周年を迎えて

名古屋市学校薬剤師会 会長 水野 勉

平成18年7月にて名古屋市学校薬剤師会は昭和11年7月の創立以来70周年を迎えることが出来ました。これも会員の先生方のご努力とご協力の賜物と感謝しております。つきましては今までの例に倣いまして創立70周年記念式典を平成19年3月21日（水）・春分の日にホテル・キャッスルプラザにおいて開催いたしたく準備を進めおります。

当日は松原名古屋市長、杉下日学薬会長、亀井愛知県薬剤師会会長、築城愛知県学校薬剤師会会長、高田名古屋市学校保健会会長を始め保健会役員の先生方、教育委員会の皆様方に来賓としてご招待、名古屋市学校薬剤師会の理事、代議員、地区会長の先生方をお迎えして、この10年を振り返り長年ご努力いただいた先生方に名古屋市長表彰、市長感謝状の贈呈を予定いたしております。

名古屋市学校薬剤師会の創立は昭和11年と早く、昭和14年4月には名古屋市において、第1回全国学校薬剤師協議会（日学薬総会）が開催されています。私の存じ上げるところでは、尾木会長、稲吉会長、野入会長、石川会長、築城会長と偉大な歴代会長の後を継いで、不肖私が発足以来十人目の会長となります。顧みればこの10年間は「学校環境衛生の基準」が毎年のように改定されて学校薬剤師には仕事量も多くなり大変革の10年でありました。しかしながら今、薬剤師が大きく変わろうとしていることは従来の検査だけではなく学校へ出向いて行う授業「薬剤師が話すくすりの話」を積極的に薦めていることです。

児童・生徒に薬剤師が直接話をするにより誰もが身近に手にすることの出来る薬の正しい使い方を指導して、今後薬剤師の存在感を高め、延いては社会的地位を高めていただきたいと思います。

今後とも会員先生方のご協力を得て名古屋市学校薬剤師会は健康な児童・生徒の育成のため努力する所存でございますのでよりいっそうのご支援ご協力のほどお願いいたします。